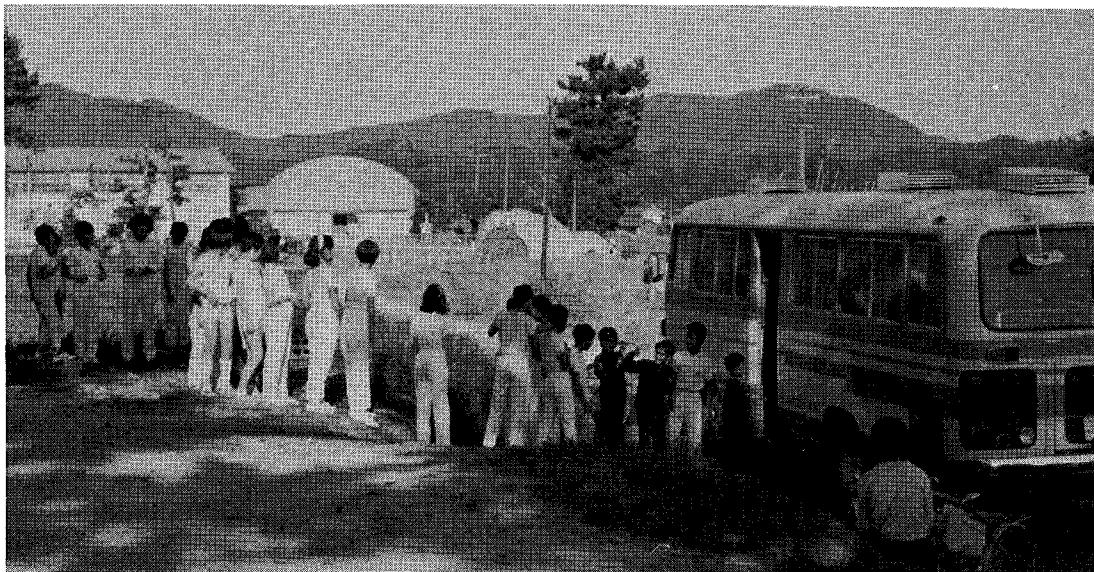


# 図書館だより

題字 島根県教育委員会教育長

号数 第22号  
発行日 昭和48年5月1日  
編集行 島根県立図書館  
松江市内中原町52  
TEL (0852) 22-5725  
印刷 (有)高浜印刷所



## —子どもの読書習慣形成について—

豊かな情操陶冶、学習活動に資料として書物を利用することによって、幅広く創造的な思考力を育てるために書物に親しむ子ども。このような読書欲の盛んな子どもにしたいという願望は、心ある父母がひとしく抱いている。そして、どうすればそのような生活習慣、読書能力を育てることができるか、ということについては、教育者は勿論、一般の識者の間にもいろいろ意見なり、実践的な試みもなされ、また、図書館運営の面でも深い配慮がなされている。

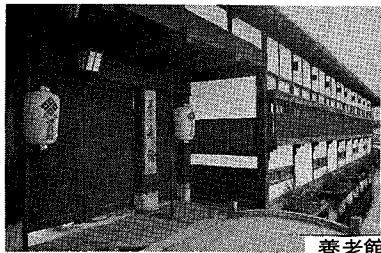
- 私は家庭で配慮すべきこととして、次のようなことを考え、PTAなどの会合にも話している。
- 幼児期から小学校2・3年にかけては、とにかく、子どもの身辺に親が書物を置いてやるよう心がける。子どもと良書の出会いは、その機会を大人が作ってやらねばならないことである。中学生、高校生でも、勉強のひまに親の書棚から文庫本とか、文学全集などを取り出して読むものである。
  - 小学校後半から上にかけては、子ども自身、書物を読まなければならぬ学習上の問題、あるいは人生問題、社会問題を先ず持つようしむけることが大切である。親としても、「そのことは、こんな本を読んだらどう」といえるだけの識見と読書経験がほしいものである。こうした考え方によれば、親子読書など、一つの具体的な方法として実行してみるべき価値がある。

島根県学校図書館協議会会長 岩田剛

## 津和野の偉人

岩 谷 建 三

津和野に偉人が輩出した原因としては山紫水明のこじんまりとしたよい環境と、大外様の長州藩と親藩の浜田、の間にはさまれた小外様として、人材養成に力を入れたことなど種々あろうが、就中後者ははその主たる原因だと思う。



養老館

さて津和野藩では亀井家各代藩主が教学に力を入れて来たが、八代矩賢が天

明6年（1786）大阪の大儒山口剛斎を招き藩校養老館を開設し一層教育に力を入れた。かくして11代茲監に至り更に人材養成に力を入れ、養老館教育の充実をすると共に藩外遊学もどんどんさせた。そうした中から偉人が輩出し文化切手により上げられた西周、森鷗外を始め明治百年記念島根百傑にも12名が選ばれている。

偉人としては、古くは元録の頃家老多胡主水真益、同主水真武兄弟があり、大殖産家として活躍し、製紙、製茶、植林、開墾、干拓等を奨励し、荻生徂徠の「政談」太宰春台の「経済録」にもその功績をたたえている。

幕末期に於ては前述の亀井茲監が名君で、藩政を改革し、教育に力を入れ、福羽美静等をつかって巧みに天下の情勢を察知して藩の進む方向を定め、尊皇攘夷をスローガンとして長州藩と通じ、長州再征の役にも中立を堅持して安泰を保った。維新に際しては議定職に連り、廃藩置県を率先して申し出た。僅か4万3千石の亀井家が伯爵となったのもその功によるものである。

大国隆正は国学の大家で平田篤胤に学び彼一流の学問を打ち立てて本学と称し、京都、江戸、小野藩（兵庫県）津和野、邇摩郡大国村、松江等でその学

を説いた。そして門人玉松操を通じて維新政治の思想的背景となった。

岡熊臣は平田篤胤の門人で嘉永2年養老館改革の際国学教師に任用され、皇國の大義に基づく「道は天皇の天下を治め給ふ大道にして………」と言う有名な養老館学則をつくった。又「日本書紀私伝」等の名著をのこしている。

福羽美静は大国門下の逸材で養老館教師として或は京都駐在情報機関長として、又長幕関係陥落時に当っては、長州藩との折衝係としてよく藩主を補佐して幕末の難闘を切り抜け、明治政府に仕えて神祇事務局権判事となり、又明治天皇の侍講、元老院議官、貴族院議員をつとめて子爵を受けられた。

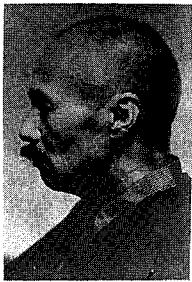
椋木潜は大橋訥庵門下の傑物で錚々たる勤王の志士となり、老中安藤信正要撃事件の「斬好趣意書」を起草した。後津和野へ帰り養老館で兵学を講じ、福羽美静と共によく藩主を補佐した。

西周は養老館に学び、大阪、岡山に遊学し養老館の儒学教師をつとめたが、後脱藩して洋学を修め幕府の番書調所の教師となりオランダに留学し、帰って將軍慶喜に重用された。明治政府の下では兵部省、文部省にあって活躍し兵制等諸制度をつくり、軍人勅諭を起草し、東京高師初代の校長となった。又元老院議官、貴族院議員としても活躍した。殊に明治初期に於ける西洋の學問思想の紹介者として有名である。（男爵を受けられた）

森鷗外は養老館に学び11才で上京し進文学舎でドイツ語を学び、東京医学校予科を経て東大医学部を卒業した。次いで陸軍軍医となりドイツに留学して帰り、累進して軍医総監となり晩年は帝室博物館長となった。文学にも秀れ世界的文豪として名声を馳せ、医学文学両博士号を有している。

山辺丈夫は養老館に学び明治3年藩の貢進生として上京し洋学に邁進して英語に熟達した。後保険学研究に渡英したが、日本紡績業界の不振をなげて紡績業の研究に専念し、帰って大阪紡績株式会社を起し更に東洋紡績に迄発展させ、その初代社長となり、我が國紡績業界の父と仰がれている。

小藤文次郎は養老館に学び藩の貢進生として上京し、大学南校（東大）に入学して地質学を専攻し、東大卒業後は同校の教師となった。間もなくドイツへ留学し、帰朝後東大教授として我が國地質学の草



森鷗外 分けの1人として内外に有名で、明治21年学位令による始めての学位（理学博士）を授けられた。

高岡直吉は養老館出身で上京し、中村敬宇の英学同人社、官立東京英語学校、札幌農学校

（北大）に学んだ。卒業後は行政方面に活躍し、宮崎、島根、

鹿児島の各県知事、門司市長を経て札幌市の初代市長として敏腕を振った。

高岡熊雄は直吉の弟で、北大卒業後同大学の教師となりドイツへ留学し、帰朝して北大教授となり後同大学々長となった。農学法学の両博士で、農政学及び植民学の大権威であった。

福羽逸人は福羽美静の女婿で、養老館に学び仏独へ留学して農学を修め、農商務省、宮内省につとめ新宿御苑の経営に手腕をふるい大膳頭となった。その間果物の品種改良につとめ、フクバイチゴ、フクバナシ、フクバインゲン等の新種をつくり農学博士を贈られた。

堀藤十郎は養老館出身で生来の英敏さで鉱山経営に大手腕をふるい、本県は元より山口、鳥取、大阪、京都の各府県及び九州にかけて数十の鉱山を持ち中国の銅山王として名をなした。そして彼はその儲けた金を公共福祉のためどんどん投げ出して行った。

中村吉蔵は早大を卒業後渡米して英文学を修め併せて近代劇を研究し帰って早大で教鞭をとった。一方劇作に力を入れ「井伊大老の死」「剃刀」等の名作を次々に発表し、又文芸協会、芸術座に於て島村抱月等と共に演劇の指導にも当った。（文学博士）

伊沢蘭斎は本名三浦茂と言い29才で女優を志して上京し、上山草人の近代劇協会次いで新劇協会に移り、短期間に名をなし「マダムX」等の名演技を演じ劇壇十余年で散ったが、松井須磨子から東山千枝子、杉村春子の時代に移る大正中期の名女優である。

天野雉彦は本名天野隆亮で島根師範卒業後しばらく小学校教員をつとめ、上京後は文芸協会、おとぎ俱楽部で演劇及びお伽芝居を研究した。又通俗講演も研究し、お伽芝居の指導者、お伽ばなし趣味講演の大家となった。

森於菟は鷗外の長男で東大卒業後、ドイツへ留学

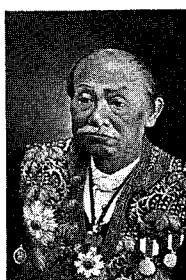
し医学博士となり台北大に奉職し、ここで外科部長となり、戦後は東邦医大の外科部長として手腕を振った。その解剖学と隨筆とは有名である。

恒藤恭は京大の大学院を出た逸材で、同志社大、京大の教授、そして外遊、後大阪商大へ転じ後に同大学長、大阪市立大学長を歴任し、法哲学、国際法の権威として重きをなした。昭和41年文化功労賞を受けた。（法学博士）

八杉貞利は東大でロシア語を研究し、卒業後ロシアへ留学、帰朝後永年東京外国语学校につとめた。ロシア語学の大権威者で、その著「ロシア語辞典」は高く評価されている。昭和36年には朝日文化賞を受けた。

和算の大家としては幕府の天文方に仕え、北海道への航路図をつくり又県文化財となった天球儀、地球儀の製作者堀田仁助、その弟子で養老館教授だった木村俊左エ門、又その弟子の桑本才次郎がある。才次郎の和算は今の微積分学にも及び、当時の世界のトップクラスを行く数学だったと評価されている。

画家としては狩野洞雲の門人岡野洞渕が絵師として召抱えられ代々絵を以て仕えた。三代洞山美高は



狩野洞春門下の白眉とされ、5代洞山陳益も狩野洞白門下の逸材とされている。家老多胡丹波は逸斎と号し、谷文晁、桜間青崖に学び、渡辺華山、椿椿山とも交わり文人画の大家となった。三浦紫暉は宋紫山に学び沈南頻

西周の画風を会得し、孔雀を描いては右に出づる者がないと言われた。大島松溪は鐸木梅溪の門人でこれ又南頻派の絵を描き又彫刻にも秀で逸品を沢山のこしている。山本琴谷は渡辺華山に師事し、その「艱民図」は藩主より孝明天皇に献上され、ウィーン万国博に「稚子抱猫図」を出品し賞を受けた。

漆工に松甫斎、松潤斎兄弟があり、その作「鯉の盆」に酒を注ぐとブクブク泡を吹くと言う。

また養老館初代教授山口剛斎、蘭医でシーポルトの弟子吉木蘭斎、君が代制定にあずかった加部巖夫、明治大正にかけて校正の神様と言われた神代種亮等沢山あるが一応これで筆をとどめよう。

## ◆◆郷土資料コーナー◆◆

最近、地方史の研究が盛んになって来ましたが、郷土資料コーナーは郷土に関する資料を閲覧できるように設けたものです。資料は一般に郷土についてのもののはなんでも含めて配架してあります。中に、森鷗外等の郷土出身者の著書を集めた「郷土人文庫」と、小泉八雲の著書や八雲についての著述を集めた「ヘルン文庫」とが設けてあります。資料には単行本、パンフレット、地方行政機関の発行する資料、文化サークルの出版物、古文書等あらゆる種類、形態のもの、しかも内容的に雑多な文献があります。これらの資料は手にとって見ていただるために、一部の貴重書を除いて自由に閲覧できるようになっておりますが、すべて貴重なものであり数少ないものばかりですので、館外貸出しはしていません。最近とみに、「中海干拓の意義について」とか、「松江城について」「島根の民話について」等と郷土に関する質問を多く受

けます。そのためいつも係員がいて相談に応じ、また図書館を直接利用できない人のために、電話や郵便による質問にも応じ、必要事項のコピーもしております。これらの質問に対して、円滑に回答するために、島根県下の郷土研究者の全リストを作成中です。また、各市町村図書館との連絡を密接にして情報交換のために、資料選定のたびに目録を送っています。最近は隣接県の鳥取県の資料収集にも力を注いでおり、米子図書館とも相互に選定資料の目録交換をしています。担当者にとって最も苦労するのは、出版される資料を正確にキャッチして、漏らさず収集しなければならないことや、県下に数多く残っている古い記録物や、古文書、現在までになくなっていると思われる資料等が、日々失われてゆくのをくい止めることです。皆様のご協力によりこれらのものを、収集保存していくかなければならないと思っています。

## 郷 土 資 料 紹 介

### 日本の民俗—島根—

第一法規が、全国都道府県の民俗を把握し、その保護のために出版を計画して、すでに47巻の内21冊発行されている。その内の32巻として、我が島根の民俗が発刊をみたのである。この書は県内において、民俗学の第一人者であり、幾多の民俗学についての著書のある石塚尊俊氏の執筆である。衣食住、生産、交通、運搬、通信、交易、社会生活、信仰、民俗知識、民俗芸能、娯楽、遊戯、人の一生、年中行事、口頭伝承、と各項目に別けられ、各々くわしく記述されている。まさに島根の民俗についての集成大成の書である。著者がはしがきで述べておられる時代差によって生じた伝統民俗の導入の説明と、本文との調節も、それぞれ著者の筆力により、解決されているようである。写真が豊富で、索引も詳細で適切なために利用しやすい。一読しておくに価する書である。

(石塚尊俊著 第一法規刊 298P)

### 出 雲 神 話

小・中学生から大人まで誰にでも読み、誰にでもわかる出雲神話の入門書である。最近の古代史ブームの中で、出雲神話が注目され、数々の著作が発表される。しかし、それは解説書であり研究書であって出雲神話の純粋なストリーを知るにはあまりに堅く、一般向しないものばかりであった。それに加え、旅行ブーム・ディスカバージャパンの波に乗り、神話と雲の国—出雲—をおとずれる人々が増えて来た。神話を知らぬ若い人々、神話の中に幼い頃の夢をはぐくむ人々、これらの人のためにも入門書は必要であった。まさにこの書はこれらの要望に適した書である。わかりやすく読物風に綴られている。又、これは中央の学者に占領されていた出雲神話(古代史)研究の現状において、郷土人研究者の先達ともなるものであると思う。高齢にもめげず、郷土史研究を続けられる著者の意欲には、感嘆すべきものがある。

(伊藤菊之輔著刊 169P)

# 著書と私

## 小説「宍道湖」

島根県立松江北高通信教育社会科教諭

吉村一夫

しんじこ 小説「宍道湖」 吉村一夫 作編発行

(3月3日)(187頁B5判)

1. (内容) —「百石の酒」、「隠岐風蘭」、「蝦夷」  
「子守の夢」、「宍道湖」、「鈴蘭」(1.羽田から千歳へ)  
(2.千歳から札幌へ)(3.全国町内会長大会第1日)  
(4.札幌市内観光)(5.登別へ)(6.洞爺湖)、「十和田  
湖」(青森)(八甲田)(酸が湯)(奥入瀬)(奥入瀬川へ)  
(奥入瀬川)(右げ戸)(十和田湖へ)(十和田湖)(八の  
太郎)(南僧坊)(2つの半島) ……「花火」(花火)(松  
江)(秋の宍道湖)(明るい未来、なつかしい青春の歌)  
以上 127頁分は昭和30、31、32と45年作。

「嫁が島今昔」(6頁分)は知人の講演原稿資料を参照し、「背中の眼」(17頁分)は哲人自由芸術家の藤原一善先生(60才)の箴文集「背中の眼」を転記し、沢田太郎に学習させ、「赤山」は1950年12月20日発行の新制松江高等学校生徒会赤山校友会誌「赤山離別式とファイアーストーム」を作文した知人の許可を得て殆んど全文を転記し、主人公沢田太郎の感情を移入させた。(天籟胸に)は赤山62会卒業30周年記念誌(1972年8月19日)発行誌より、発行者同期の事務局長の許可を得て約 $\frac{1}{2}$ の文を転記して、この小説に現住民的現実感と歴史感と出して、この小説の主人公の杉山啓造と共に沢田太郎の人物の歴史的解説の部分をなしているように見せかけるためにのせた。以上の56頁分は昨年と今年2月に編集した作品。

くもすけなつお たんかげきやく 「雲助夏夫」短歌劇脚本は、昭和22年夏より起草し昭和36年に脱稿した作品だが、京都大学文学部時代に桑原武夫先輩が俳句短歌は第2、第3芸術であり、詩歌劇は第1芸術であるという評論をされたことからそれを作った次第で、終りの方のは故坂東三津五郎丈の舞踊長唄「雷の子」が雲にのって天雲に帰る場景が今でも忘れられない。又、この小説「宍道湖」の編集を一応終ったことと自分自身を慰めるために。

○「雲助夏夫」のような連歌を朗詠したら、たのしからうと結びのつもりでのせた作品。3頁分41首。

## 2. 小説「宍道湖」作本編集発行者の感想

昭和48年2月15日、満48歳になったので私の人生の記念品を作り、家族、親せき、知人、友人に私のささやかなおみやげとして謹呈し、よろこんでもらえればよいがなと祈願して、思いきって昭和22年以後に書きためておいた文芸作品を長編小説化し、編集して、自費で自由に気楽に単行本3百冊を、親しい印刷屋の方に注文し、3回校正して出版。

3月3日(土)(大安)桃の節句の日を発行日としたかったので、校正不充分のまま、製本してもらってから、校正訂正添削し、とりあえず百冊を親しい友人、知人に謹呈して、よろこばれた。再び正誤表を作って、百冊を謹呈した日、島根県立図書館報に「著書と私」の原稿(20日必着)依頼状が来たのも縁。ひや汗をかきながら中間的な感想を書いて投稿の言訳。実は古い図書館員として昭和28、29年にガリ版の図書館報を何回か編集発行したという因縁があるので、投稿をお引受けした次第ですが——手持残り30冊ありますので、御希望の方には謹呈致す覚悟。今までの読者の方の批評と作者の意図と合致するか?それは賭け事のような気持です。大変面白いとの評判ですが。

「百石の酒」は明治の松江の情感がねらい。新しさがりやで遊び好きでお人よしで情熱あふれる男性が25才から75才までに酒を百石以上飲んだ小説。その孫2人。実は作者の分身で、積極的に外向性の杉山啓造47才と消極的に内向性の沢田太郎48才達の恋愛、結婚、交友関係と紀行文を小説化し、故郷松江及び特に宍道湖の自然美の中で、喜怒哀樂してきた昭和12年から、昭和47年8月19日の松江中学卒業30周年記念同窓会で、杉山啓造一家がマニラより帰松して沢田太郎一家と再会し、1976年(旧松江中学校の建っていた)赤山に同窓会館が建てられた時は、松江で会う事を契約し、48歳になった杉山啓造と沢田太郎とが、宍道湖の周辺や松江の様相も人情も変化したが、しかし、松江北高の赤山復帰新築移転、旧松江中学創立百周年記念と赤山同窓会の総会の日に、昔の松江人と再会できるというなつかしく明るい希望を持つというあらすじですが。再び、「水害、公害を防ごう」の意図です。(後略)

# ◆第15回こども読書週間！◆

—5月1日～5月14日—  
中中こども室から中中

新学期もはじまり、生活の軌道にのった子どもたちが、元気に友達と誘いあって図書館へやってきます。

ところで今年も5月1日から14日まで『こどもの日』を中心として2週間「こどもの読書週間」が、開催されます。

正しい読書の習慣を、培うことを目的として、読書推進運動協議会が、主催します。これがため、各地では、公共図書館、文化団体等が支援して、種々の行事が例年行われますが、県立図書館においても、5月13日(日)に、次のような行事を計画しました。

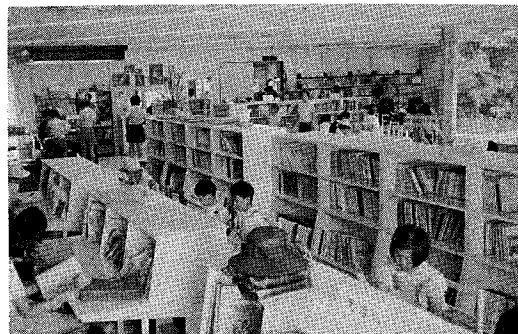
1. 1日こども司書——これは、こどもに司書業務を実習させることにより、図書館に親しませ、利用の促進を図るとともに学校における図書委員としての心得について学ぶことを旨として、松江市内の小学校高学年の児童を対象に行うこと予定しています。

2. こどものつどい——これは、こどもたちの世界との交流を深めることによってさらに一層、図書館と、こどもたちとの連携を図ることを旨として、指人形、ストーリーティリング、レクリエーション、映画等を予定しています。参加は誰でも自由にできます。

また、5月10日には、広瀬町の東比田小学校において、「こどものつどい」を開催することになります。

この「こどものつどい」をきっかけにして、これから定期的に、ストーリーティリングを、図書館において実施していくと思っています。「ストーリーティリング」とは、お話を子どもたちにすることによって、子どもたちをその世界にひきこみ、間接的に読書への導入へ結びつける一つの手段として、近年各図書館で盛んに行われています。

幼少の時から読書に親しみ、読書の喜びを身につけることが、どんなに大切なことは、今更申すまでもないことです。そのため、その読書の習慣を養うための方法としてこのストーリーティリングは、重要な役割を担うものと思います。



こども室

これを定期的に積み重ねることによって、本に興味を持つこどもたちが、増えることを期待しています。

なお、実際に話をするストーリーティラーは、図書館の職員はもちろんですが、市内の劇団の方々に参加を要請しています。

また、秋には中央から講師を招いて、お母さん方に、子どもの本を研究していただくように計画しています。

日頃、お母さん方が子どもたちを連れて、図書館へいらして、本に関心を持っていただいているが、どの位、子どもたちの本を理解していただいているでしょうか、といいますのも、お母さん方がかつて読まれた時代と今とでは事情が違い、当然本の内容も変ってきているはずだからです。本を理解していただいたうえでないと、その指導は放任か、或いは、一方的な押しつけになってしまふのではないでしょう。

それでは困ります。お母さん方には、本の内容をよく理解したうえで、子どもたちに適切な本の選択をしていただきたいと思います。

今まで、当図書館においては、そのための活動を余り行なっておりません。今回始めての試みですが、お母さん方に是非こういう機会をとらえて、勉強されることを望みます。

公共図書館と、学校図書館との相互の連絡を図ることの重要性は、以前からいわれています。教育の力の大きさを借りるといえば曲解されますが、指導面においては見逃せません。是非指導の点において学校の援助も仰ぎたいと思います。

## こども読書週間にちなんで

# 石見町における読書普及活動

## 石見町モデル文庫

石見町中央公民館にモデル文庫を設置して3年になる。蔵書は県立図書館の図書が1,011冊、広域図書381冊、中央公民館の図書1,000冊の計2,392冊である。利用者は1日に20~30名で、年令別にみると約半分が小中学生で、一般の大人は3割弱である。小中学生の利用者が多いということは、公民館が学校の近くに位置し、卓球設備もあることから、小中学生にとってよい遊び場となっていることが、主な原因であると考える。読書をすすめ、普及させる立場にある我々としては、こういう機会を大切にしたいと思う。子供の読書を通じて、家庭での親子読書を促すとともに、一般住民の読書の普及をはかる願ってもないよい機会と考えるからである。こうした考えは町内の小中学校でもすすめられているのでかなり効果をあげつつあると思っている。一例をあげてみると、日和小学校では、毎朝10分間の読書の時間をもつとともに、生徒に読書ノートをとらせ、授業の中で読書の時間をもうけたり、家庭内における自由読書をすすめている。自由読書とは、読書記録をとりながら、低学年においては、毎日20分間、高

学年においては1週間に1冊読破を目指にすすめている読書活動である。又、各家庭内で、週2回曜日をきめて親子で輪読し、その都度意見や感想を書きとめ、親子間や、他の人々と別な時間に意見や感想をのべあう機会をもつなど学校による熱心な読書指導が行なわれている。中学校においては、毎月の個人別、学級別の読書量グラフを掲示したり、三行書き感想文運動や、年1回校内読書感想文コンクールを行なっており、読書普及活動を積極的にすすめている。この学校の生徒が読書感想文コンクールで日本一となり、総理大臣賞をもらったことは読書普及活動にはよい刺激となると思われる。

公民館には、子どもの借りた本を返すついでに本を借りていく親や、親子づれで本を借りにくる人がよくみうけられる。こうしたことは、親と子が読書を通じて対話をもつ機会を増し、理解を深めあっていく姿として、ほほえましいものである。又この図書室には、リクエスト箱をおき、購入希望図書はできうる限り購入していくよう努めている。

## —ぜひ読ませたい児童図書!!—

### 「長くつ下のピッピ」

リンドグレーン作品集より

対象 中・高学年向

髪の毛はにんじんのように赤くて、鼻は小さいじやがいもみたい。顔はそばかすだらけで口がおおきい。着ている着物はお手製でつんつるてん。長くつ下の一方は黒で、もう一方はだんだら縞、くつは二そうの船ほどもおおきい。腕の力といえば町中でこの9歳の女の子にかなう者は一人もいない。おまわりさんでも、自分の馬でも片腕でさしあげることができた。両親はいない。そのうえこの変った娘はやりたいことがなんでもできた。それができたのは、ピッピが自分の家と、金貨のいっぱいいつまつた箱を持っているからである。

この長くつ下のピッピは、抑圧された子どもの心がいだくあらゆる夢を実現する人物で今日の子どもの心をいやす働きをもつ。またピッピの行いには、弱い人を助けようとする心にあふれ、寛大であり、退屈することがない。そしてこの本のおもしろみは、機知にあふれる対話にあろう。

(岩波書店 500円)

### 「人間の歴史上・下」

イリーン・セガール作

対象 高学年・中学生

人間の祖先は、力弱い生きものでしたが、手を働かせることを発見し、道具を使い、協力して働くことを覚え、考えることを学びました。でも現実と空想を区別して、実際に考えるのは、いく千年、いく万年も後の事です。

時にはつまずき、倒れ、道にまよい、後もどりもしながら、考えることによって、人間は前進はじめます。

この物語では、ソクラテスが毒の盃をかたむけ、ジョルダノ、ブルーノが火あぶりになるなどの悲劇もいくつかありますが、しかしあかるい希望の光を人間は決して見失うことはないでしょう。

物の本質を解剖し、世界を発展的にとらえ世界全体を一望のもとに見通すことのできる哲学書です。

わかりやすく、おもしろく、真面目に書かれていて、これを読むことによって、我々は人間を知り、世界を知ることができます。

(岩波書店 750円)

## 視聴覚室

### ◇映画フィルム◇

#### 二人だけの出発

16ミリカラーアート32分

性の開放が叫ばれ、やや「開きすぎた扉」の風潮がある昨今「愛・生きがい・結婚etc」についてのいわゆる女性向けの図書の出版が目立っている。現代の若者の間で最も関心の深いテーマに「愛と性と結婚」がある事は当然であろう。ただ、これが興味本位で本質をみつめる姿勢に欠けるような波に、押し流されることなく、自分のモラル観を持ち、それに対して責任もてる姿でありたいものだ。

青年を中心とした自主学級・グループでは学習資料としてフィルムを利用すると、とても効果的である。サークル活動でも一つの映画を囲んであれこれ討論する。自分の物差しでばかり計っていた事柄が、第三者の目には違って映る事が大いにあるし、いわゆる様々な価値観が見えてくる。

ここに「結婚とは何か」というテーマにとり組んだフィルムがあるので紹介してみよう。

洋(25)と安江(22)の2人は、周囲の反対を押し切って同棲生活に入る。

### ◇個人聴取ブース◇



図書館に入ってホールの左手の薄暗い通路を抜けるとパッと『ビートルズ』のカレンダーがいち早く視界に入り、明るい部屋に出る。ここが視聴覚室である。

この部屋の一画には、4台のブースが設置しており、レコード音楽・録音教材等のテープをヘッド・ホンで個人

ブース利用風景鑑賞できる。

利用者は、学生が断然多く、平日は、小中学生が午後になると姿を見せるが、夏・冬季の休み期間に入ると、朝から大変な振舞いとなる。レコード音楽は図書館所蔵のレコードを録音して、そのテープを利用している。ポピュラーは主として高校生に人気があり、クラシックはポピュラーに比べると人數の上では少なくなるが、コンスタントな人気を保っている。録音教材は小学生が多く、中でもとりわけ



小ぎれいなアパートの一室でささやかな夫婦生活は始まり、「子供が3、4人、芝生があって……」と未来の夢はつきない。ところが洋の田舎の母親への送金から、金銭問題で悶着が起ったのを発端に、洋が職場をとび出して職探しの毎日が始まったり、一方安江の方では経済状態を考え子供をおろしたりして、2人の間では感情の行き違いがおきる。安江は実家に帰って病気になり、そのまま2人は別れてしまう。しかし「恋愛時代と結婚生活はちがう」と気付いた2人は、もう一度頑張ろうと立ち上るのだった。

この映画は、若い2人の生活を通して、「愛と性・結婚生活・親の扶養・眞の愛情」等について様々な問題提起をしている。

け、「氷姫」「かぐや姫」「白雪姫」「耳なし芳一の話」等、昔話に根強い人気がある。

このように耳からは、音声をもって知識を得、同時に目では活字・絵を追い、立体的な方法で読書・音楽鑑賞できるというのが、個人聴取ブースの特徴である。

☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆

### ◇録音教材◇

家庭教育シリーズの中から

その1.

—こどもの遊びと地域社会— (15分)

横浜市街地におけるこどもの遊び場に対する環境整備の方法と福島県の一市町村におけるこども会の姿に焦点をあわせ、都市と地方での遊び場に対する地域住民の動きについてのべる。

その2.

—レジャー施設を生かす— (15分)

大阪府・青少年野外活動センターと、全国にあるユースホステルの利用状況・特色についてのレジャー施設を利用する時には親の配慮と、子どもの発達段階に応じての施設の遊び方が必要と言っている。

.....ご利用ください.....